

作成日：2019年3月20日

改訂日：2020年8月1日

安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

製品名 プレノカラー遮熱 ミドルグリーン

会社名 日新工業株式会社

住所 〒120-0025 東京都足立区千住東2丁目23番4号

担当部門 技術部

電話番号 048-755-6188 FAX番号 048-755-6177

緊急連絡先 03-3882-2613 営業総務課

奨励用途及び使用上の制限 工業用 (建築用仕上げ材 等)

整理番号 AR-T066

2. 危険有害性の要約

GHS分類

急性毒性 経口	区分外	発がん性	区分2
急性毒性 経皮	区分外	生殖毒性	区分外
急性毒性 吸入	区分外	標的臓器／全身毒性(単回暴露)	区分2
皮膚腐食性/刺激性	区分2	標的臓器／全身毒性(反復暴露)	区分1
眼損傷/刺激性	区分1	吸引性呼吸器有害性	分類できない
呼吸器感作性	区分外	水生環境有害性(急性)	区分外
皮膚感作性	区分外	水生環境有害性(長期間)	区分外
生殖細胞変異原性	区分外		

※ 記載のないものは分類対象外または分類できない。

GHSラベル要素



注意喚起語：危険

危険有害性情報

- ・ 皮膚刺激
- ・ 重篤な眼の損傷
- ・ 発がんのおそれの疑い
- ・ 臓器の障害のおそれ
- ・ 長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害

注意書き

<安全対策>

- ・ すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと
- ・ 取扱い後は良く手を洗うこと
- ・ 取扱い後は良く眼を洗うこと
- ・ ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと
- ・ この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと
- ・ 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること

<救急処置>

- ・ 皮膚に付着した場合、多量の水で洗うこと
- ・ 眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。直ちに医師に連絡すること
- ・ 暴露または暴露の懸念がある場合、医師に連絡すること。

<保管>

- ・ 施錠して保管すること

<廃棄>

- ・ 内容物や容器を、国際／国／都道府県／市町村の規則に従って廃棄すること

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別 製品は混合物

成分	含有量 (%)	官報公示整理番号 (化審法・安衛法)	CAS No.
エチレングリコール	1 - 5	2-230	107-21-1
酸化チタン(IV)	1 - 10	1-558	13463-67-7
アンモニア水	<1	1-314	1336-21-6
酸化第二鉄	1 - 10	1-357	1309-37-1
臭素化フタロシアニングリーン	< 1	5-3318	14302-13-7
塩素化フタロシアニングリーン	< 1	5-3315	1328-53-6

4. 応急措置

一般的な措置

- ・ 気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
- ・ ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当てを受けること。
- ・ 直ちに医師に連絡すること。

吸入した場合：

- ・ 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・ 直ちに医師の診断/手当てを受けること。

皮膚に付着した場合：

- ・ 付着物を布にて素早く拭き取る。
- ・ 直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと。皮膚を流水/シャワーで洗うこと。
- ・ 衣類にかかった場合：服を脱ぐ前に、直ちに汚染された衣類及び皮膚を多量の水で洗うこと。
- ・ 多量の水と石鹼で優しく洗う。
- ・ 多量の水と石けん（鹼）で洗うこと。
- ・ 皮膚刺激又は発しん（疹）が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
- ・ 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。
- ・ 外観に変化が見られたり、刺激・痛みがある場合、気分が悪いときには医師の診断を受ける。

眼に入った場合：

- ・ 水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
- ・ 眼の中に全て水が行き届くように洗浄する。
- ・ 眼をこすらせてはならない。
- ・ 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。
- ・ 医師にばく露物質名、防護のための注意を通知する。

飲み込んだ場合：

- ・ 口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- ・ 飲み込んだ場合、直ちに医師の診察を受け、医師にその容器又はラベルを見せる。

医師に対する特別な注意事項

- ・ 特別な処置が必要である。

5. 火災時の措置

消火剤： 周辺設備に適した消火剤を使用する。
霧状水、噴流水、泡、耐アルコール泡、粉末、炭酸ガス、乾燥砂が有効である。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項： 回収が終わるまで十分な換気を行う。
換気不十分な場所で漏洩を処理するときは自給式呼吸保護具を着用する。
適切な保護具を着用する。
こぼれた場所はすべりやすいため注意する。
着火源を取除くとともに換気を行う。
風上から作業し、風下の人を退避させる。
安全に対処できる場合は漏洩を止める。

環境に対する注意事項： 漏れ出した物質の下水、排水溝、低地への流出を防止する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材： 不活性の物質（乾燥砂、土など）に吸収させて、容器に回収する。

- 二次災害の防止策：
- 多量に流出した場合、盛土で囲ってのち処理する。
 - 漏出物を回収すること。
 - 汚染個所を洗剤、水で洗い流す。
 - 回収物の廃棄方法については、専門家の指示を求める。
 - 安全に対処できるならば漏えい（洩）を止めること。
 - 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い：

技術的対策

(取扱者のばく露防止)

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。

注意事項

皮膚に触れないようにする。

眼に入らないようにする。

吸入や接触により皮膚や眼に刺激や炎症を起こすおそれがある。

安全取扱注意事項

使用前に取扱説明書を入手すること。

全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。

保護手袋/保護眼鏡/顔面保護具を着用すること。

保護手袋を着用すること。

保護眼鏡/保護面を着用すること。

指定された個人用保護具を使用すること。

取扱い後は手、汚染個所をよく洗う。

取扱中は飲食、喫煙してはならない。

保管：

配合禁忌等、安全な保管条件

涼しいところに置くこと。

国際/国/地方の規則に従って保管すること。

施錠して保管すること。

避けるべき保管条件

日光から遮断し、50℃以上の温度にばく露しないこと。

飲食物、動物用飼料から離して保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

- 設備対策：
- 適切な換気のある場所で取扱う。
 - 手洗い洗顔設備を設ける。

管理濃度及び許容濃度：

成分	管理濃度	許容濃度	
		日本産業衛生学会 (2013)	ACGIH(2005)
酸化チタン(IV)		0.3mg-ナノ粒子/m ³	ACGIH(1992) TWA: 10mg/m ³ (下気道刺激)
エチレングリコール	—	—	TWA: 25ppm(V); STEL: 50ppm (V), 10mg/m ³ (I,H) (上気道刺激性)
酸化第二鉄	—	—	TWA: 5mg/m ³ (R) (じん肺)

保護具

呼吸器用の保護具	換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	保護手袋を着用する。
眼の保護具	保護眼鏡/顔面保護具を着用する。
皮膚及び身体の保護具	保護衣を着用する。

9. 物理的及び化学的性質

物理的状態

形状： 粘調液体。

物理的状態が変化する特定の温度/温度範囲：

融点： データなし。

凝固点： データなし。

初留点/沸点： 製品 100°C

10. 安定性及び反応性

通常の保管条件/取扱い条件において安定である。

11. 有害性情報

引火性液体：	データ不足のため分類できない。
急性毒性（経口）：	エチレングリコール ラットLD50=6,140 mg/kg 塩素化フタロシアニングリーン ラット LD50>2,000 mg/kg アンモニア水 ラットLD50=350 mg/kg 酸化チタン(IV) ラット LD50 > 5,000 mg/kg 上記より混合物として区分外に分類される。
急性毒性（経皮）：	酸化チタン(IV) ハムスター-LD50>10,000 mg/kg 上記より混合物として区分外に分類される。
急性毒性（吸入）：	エチレングリコール ミスト: ラット LC50=2.7 mg/L/4hr 酸化チタン(IV) ダスト：ラット LC50>5.09 mg/L

- 上記より混合物として区分外に分類される。
- 皮膚腐食性／刺激性：エチレングリコール ヒト 刺激性
酸化第二鉄 ヒト 中等度の刺激性
アンモニア水 ラビット 腐食性
上記より混合物として区分2に分類される。
- 眼損傷／眼刺激性：エチレングリコール ラビット 軽微な結膜刺激
酸化第二鉄 ヒト 腐食性
アンモニア水 ラビット 腐食性
上記より混合物として区分1に分類される。
- 皮膚感作性：データなし
呼吸器感作性：データなし
変異原性：データなし
発がん性：酸化チタン(IV) cat.2; IARC (93, 2010) Gr.2B et al
酸化第二鉄 IARC-Gr.3
エチレングリコール ACGIH-A4
上記より混合物として区分2に分類される。
- 生殖毒性：データなし
特定標的臓器／全身毒性－単回暴露：
エチレングリコール 中枢神経系、血液系、腎臓 区分1
気道刺激性 麻酔作用 区分3
酸化第二鉄 気道刺激性 区分3
混合物として区分2に分類される。
- 特定標的臓器／全身毒性－反復暴露：
酸化チタン(IV) 区分1（呼吸器）
酸化第二鉄 区分1（呼吸器系）
上記より混合物として区分1に分類される。
- 吸引性呼吸器有害性：データなし
その他の情報：情報なし。

12. 環境影響情報

- 生態毒性：
- 水性生物有害性(急性)：エチレングリコール 魚類（ヒメダカ）LC50 > 100mg/L/96hr
塩素化フタロシアニングリーン 甲殻類（オミジノコ）EC50 = 153.6 mg/L/48hr
アンモニア水 甲殻類（ミッドシュリンプ）LC50=2.81-98.9mg total NH3/L/96hr
酸化チタン(IV) 甲殻類（オミジノコ）EL50 > 100mg/L/48hr
上記より混合物として水性環境有害性(急性)は区分外に分類される。
- 水性生物有害性(長期間) エチレングリコール 甲殻類（ニセコゼミジノコ）MATC=4.2 mg/L/7days
塩素化フタロシアニングリーン 甲殻類（オミジノコ）NOEC ≥ 1 mg/L/21days
アンモニア水 甲殻類（ミッドシュリンプ）NOEC=3.47mg total NH3/L/32days

上記、生分解性、蓄積性のデータより、水性環境有害性(長期間)は区分外に分類される。

水溶解度：	エチレングリコール 100 g/100 ml (PHYSPROP Database, 2005) 酸化第二鉄 溶けない (ICSC, 2004) アンモニア水 混和する (ICSC, 1995) 酸化チタン(IV) 溶けない (ICSC, 2002)
残留性／分解性：	エチレングリコール 急速分解性あり (BOD分解度=90%/14days, 既存点検, 1988)
生体蓄積性：	エチレングリコール log Pow=-1.93 (ICSC, 1999)
土壌中の移動性：	データなし。

13. 廃棄上の注意

廃棄物の処理方法	環境への放出を避けること。 内容物/容器を地方/国の規則に従って廃棄すること。 承認された廃棄物集積場で処理する。 環境汚染を防止するために適切な容器等を使用する。
----------	---

14. 輸送上の注意

国連番号：	該当しない。
環境有害性：	MARPOL条約附属書III - 個品有害物質による汚染防止 海洋汚染物質 (該当/非該当)：非該当
特別の安全対策：	直射日光、雨にばく露されないように運搬する。
バルク輸送におけるMARPOL条約附属書II 改訂有害液体物質及びIBCコード	有害液体物質 (Y類) アンモニア水 エチレングリコール 有害液体物質(Z類) 酸化チタン(IV)

15. 適用法令

労働安全衛生法		
粉じん障害防止規則 (令19号)	酸化チタン(IV)	
安衛法第57条の2第1項	アンモニア水 エチレングリコール、酸化チタン(IV)、酸化第二鉄 塩素化フタロシアニングリーン、臭素化フタロシアニングリーン	
労働基準法：疾病化学物質	アンモニア水	
消防法	該当しない。	
化審法	優先評価化学物質	エチレングリコール
じん肺法		酸化チタン(IV)
悪臭防止法		アンモニア水
大気汚染防止法	特定物質	アンモニア水
	大気汚染物質	塩素化フタロシアニングリーン 臭素化フタロシアニングリーン
水質汚濁防止法	有害物質	アンモニア水
	指定物質	酸化第二鉄 塩素化フタロシアニングリーン

適用法規情報 この物質に関する貴国又は地方の規制に関する調査は貴社の責任で処理願います。

16. その他の情報

主な引用文献

Globally Harmonized System of classification and labelling of chemicals, (5th ed., 2013), UN
Recommendations on the TRANSPORT OF DANGEROUS GOODS 19th edit., 2015 UN
Classification, labelling and packaging of substances and mixtures (table3-1ECNO6182012)
2016 EMERGENCY RESPONSE GUIDEBOOK (US DOT)
2018 TLVs and BEIs. (ACGIH)
<http://monographs.iarc.fr/ENG/Classification/index.php>
JIS Z 7253 (2019年)
JIS Z 7252 (2019年)
2018 許容濃度等の勧告 (日本産業衛生学会)
Supplier's data/information

- (1) このデータシートは、製品に関する情報提供を目的としたものであって、その記載内容に関し、弊社が売主その他の立場で保証責任を負うものではありません。
- (2) このデータシートは、作成日又は改訂日までに弊社が入手した情報に基づいて作成しておりますが、記載内容は新しい知見又は法規制の変更等により改訂されることがあります。
- (3) このデータシートは通常想定される保管方法および取扱い方法の範囲における情報提供です。したがって、特殊な保管又は取扱いを行う場合は、その保管又は取り扱いに適した安全対策を実施の上ご利用下さい。
- (4) 本製品の貴社の用途に対する法規制、適合性及び安全性については、弊社では確認しておりませんので、調査又は試験により確認の上ご利用下さい。
- (5) 貴社において本製品を輸出される場合には、外国為替及び外国貿易法等輸出関連法規を遵守の上、輸出してください。